

はじめて JSL バンドスケールを使われる方へ

川上郁雄著『JSL バンドスケール【小学校編】一子どもの日本語の発達段階を把握し、ことばの実践を考えるために』（2020、明石書店）

川上郁雄著『JSL バンドスケール【中学・高校編】一子どもの日本語の発達段階を把握し、ことばの実践を考えるために』（2020、明石書店）

1. 日本語を学ぶ子どもたちとは

JSL バンドスケールは、日本国内で日本語を第二言語 (Japanese as a Second Language: JSL) として学ぶ子どもたちを対象にして開発されました。

- ・外国から日本にやってきた外国籍の子ども
- ・家庭で日本語以外の言語を使用している子ども
- ・海外から帰国し、日本語を学ぶ機会が少なかった日本人の子ども

などを含みます。

日本語を含む複数の言語に触れながら育つ子どもを、ここでは「日本語を学ぶ子ども」と呼びます。

2. 何のために

JSL バンドスケールを使うと、教師は何ができるようになりますか？

教師は、

- ・子どもの日本語の発達段階を把握することができます。
- ・子どもが日本語を学ぶ時にどのような補助を必要としているかを知ることができます。
- ・そのことをもとに、日本語教育の実践を準備し、実施することができます。
- ・子どもの日本語の発達段階を教員間で共有し、発達過程を長期的に把握することができます。
- ・そのことにより、学校全体で、これらの子どもの教育方針を考えることができます。

どのように使用しますか？

- ・JSL バンドスケールには、「聞く」「話す」「読む」「書く」の4技能の発達段階の説明文があります。
- ・教師は、子どもの日本語を使う様子や課題に取り組む様子をじっくり観察します。
- ・その上で、JSL バンドスケールの説明文や例と、子どもの日本語使用の様子を照らし合わせながら、子どもの日本語の発達段階を把握します。

JSL バンドスケールは「テスト」ですか？

- ・ JSL バンドスケールは、「テスト」ではありません。
- ・ 子どもの日本語の力を、1回のテストや一つの課題や場面だけで把握することはできません。
- ・ JSL バンドスケールは、子どもの日本語の発達段階を広い視野で総合的に捉えるためのツールです。

JSL バンドスケールは日常的な実践から、日本語の発達段階を把握します。

- ・ JSL バンドスケールは、日常的な実践の中で子どもがどのような「やりとり」をしているか、また課題に取り組む際、どのような様子かを観察することが基本です。
- ・ したがって、JSL バンドスケールと日常的な実践を切り離すことはできません。
- ・ 日本語の発達段階を踏まえて、子どもへの日本語教育の実践を長期的な視野で組み立てることが大切です。
- ・ 子どもの日本語の力を、1日で把握することはできません。
- ・ 日本語が覚えられないからといって、すぐに「発達障害があるのでは」と考えたり、「とりあえず特別支援学級に入れておこう」と考えるのは誤りです。子どもの発達を長期的な視野で考える時に、JSL バンドスケールも、一つの有効なツールとなるでしょう。

JSL バンドスケールは、日本語を学ぶ子どもの日本語の発達段階を把握し、子どもの「ことばの力」を育むため、どのような実践を行うかを考えるためのツールです。

さらに詳しい情報は、以下の note をご覧ください。

「子どもの日本語教育と JSL バンドスケール」

<https://note.com/ikuokawakami/m/me8c1aec08f7f>